

# 事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

## 平成30年度 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2019年3月31日

社会福祉法人森友会  
ひだまりの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1  
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 清水 康之

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	ひだまりの森保育園			
事業所連絡先	〒	185-0031		
	所在地	東京都国分寺市富士本1丁目2番16		
	Tel	042-505-7199		
事業所代表者氏名	中川 清志			
契約日	2018年	9月	1日	
利用者調査票配布日(実施日)	2018年	9月	25日	
利用者調査結果報告日	2018年	11月	17日	
自己評価の調査票配布日	2018年	9月	22日	
自己評価結果報告日	2018年	11月	17日	
訪問調査日	2018年	11月	28日	
評価合議日	2018年	11月	28日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回収率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

<p>1</p>	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての子どもの最善の利益のために「心身の調和的発達」を促す保育 全てのこどもが、自分の流れで園生活を楽しむ。</li> <li>・すべての子どもの最善の利益のために「基本的な生活集団」を促す保育 全てのこどもが、無理なく自立への道を歩む。</li> <li>・すべての子どもの最善の利益のために「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育 全てのこどもが協力・協働の喜びを知る。</li> <li>・すべての子どもの最善の利益のために「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心」を育てる保育 全てのこどもが、自然・社会に積極的に関わる。</li> <li>・すべての子どもの最善の利益のために「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎を培う保育」 全てのこどもが、自分なりに表現を楽しんで発表する。</li> </ul>
<p>2</p>	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>社会人として世の中の規範を守り、人には優しく常識的な行動をとると共に、保育士として子ども達に温かい心を持って丁寧に対応してもらいたい。 主任、リーダー等の上位職にある人に関しては立場を自覚して、リーダーシップを持って各フロアの職員を率先して引っ張って行ってほしい。 経験の浅い職員は少しでも先輩の職員に近づこうとする意識を持ち、不明な点は質問するなどして自己研鑽に励んでもらいたい。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>ひだまりの森保育園で預かる子ども達の「最善の利益のために」を常に考えて子ども達に接するようにする他、子ども達の自主性・自発性を促す事ができる生活環境、遊びの環境、行事計画を行ってほしい。 職員は、各々が社会的責任を背負っていることを常に自覚し、平素からの服装・態度・発言等を常に意識した行動を取り、他者との協調性を図り、保護者に信頼される人間関係の構築を行ってほしい。</p>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯62(在籍児童数80)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ、郵送または郵送・事業所内回収の併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	80
利用者家族総数(世帯)	62
共通評価項目による調査対象者数	62
共通評価項目による調査の有効回答者数	43
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	69.4

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」30.2%・「満足」48.8%の計79.0%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「食事」「保護者に配慮した行事日程」など全17問中8問で80～90%台の高い支持を得ており、「戸外活動」のみ50%を下回っている。  
自由意見では「集団でまとまって動くというよりも子ども一人ひとりのその時にやりたいことを尊重し、園内は屋上から園庭までどの子どもも自由に移動して遊べるようにしてくれ、好きなことをとことんできる環境でありたい」「個人の自由を大切に行動を自発的に決定できるようにし、放ったらかしで好きなことをさせるのではなく、個人の性格に合わせた声かけやイベント等でさまざまな活動に触れさせてくれ、子どものすぐれている点や注意する点を保護者に伝えてくれる」「布団・布団カバーを用意しなくてよく、異年齢保育で年上の子たちから成長のきっかけや刺激を受けられる」「園庭でしっかりと外遊びもさせてくれ、工作等で手先の練習や創造力も身につく」「子どもの意思を最優先にしてくれ、信頼できる」などの声が寄せられている。  
さらなる向上を望む意見としては日常の保育や子どもの様子の報告・説明に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	41	1	0	1
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が97.6%、「どちらともいえない」が2.4%となっている。 自由意見は2件で、「今は異年齢のお兄さんお姉さんを見て刺激を受け、いろいろ挑戦したり、まねをしたりと、役立っていると思う」のほか、年長児の発達に即した活動や身体を使った活動などの充実について、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	39	2	1	1
「はい」が92.9%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見は2件で、「自分の興味のあること、好きなことに、集中して気が済むまで取り組めることはよい」のほか、子どもの興味や関心を促す保育者の働きかけについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	40	1	0	2
「はい」が97.6%、「どちらともいえない」が2.4%となっている。 自由意見には砂糖の接種について、さらなる配慮を望む内容が1件寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	17	15	9	2
「はい」が41.5%、「どちらともいえない」が36.6%、「いいえ」が22.0%となっている。 自由意見には戸外活動や行事などのさらなる充実を望む内容が10件寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	27	5	0	11
「はい」が84.4%、「どちらともいえない」が15.6%となっている。 自由意見は「利用時間を変更したことがない」の1件があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	30	8	4	1
「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が9.5%となっている。 自由意見は4件で、「不審者情報メールをくれたりしている」「基本的には大丈夫だと思う」のほか、設備面を含む保育中の安全管理や衛生面への配慮について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	37	3	1	2
「はい」が90.2%、「どちらともいえない」が7.3%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	35	3	4	1
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が7.1%、「いいえ」が9.5%となっている。 自由意見は2件で、「日頃からよく子どもの様子を見てくれていると思う」のほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	5	1	1
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が11.9%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見には各所で行う消毒について、お迎え時に感じるにおい残りに関する内容が1件寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	27	10	4	2
「はい」が65.9%、「どちらともいえない」が24.4%、「いいえ」が9.8%となっている。 自由意見には職員の言葉遣いや接遇、服装・身だしなみについて、さらなる配慮を望む内容が5件寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	30	8	4	1
「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が9.5%となっている。 自由意見は「人による」「子どもが多い中、すべてを把握するのは難しいと思うが、時々曖昧であったり、子どもに聞いた話と違ったりする時がある」の2件が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	19	10	2	12
「はい」が61.3%、「どちらともいえない」が32.3%、「いいえ」が6.5%となっている。 自由意見は5件で、「今のところ経験がない」などのほか、子ども同士のトラブル等の把握や保育者の対応について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	32	8	2	1
「はい」が76.1%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が4.8%となっている。 自由意見は2件で、「してくれていると思う」のほか、子どもの気持ちを大切にされた対応や一人ひとりへの配慮・目配りなどについて、さらなる配慮を望む声寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	33	6	0	4
「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が15.6%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	28	9	5	1
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が21.4%、「いいえ」が11.9%となっている。 自由意見には子どもの成長発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者への説明や伝達について、さらなる配慮を望む内容が1件寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	29	5	4	5
「はい」が76.3%、「どちらともいえない」が13.2%、「いいえ」が10.5%となっている。 自由意見には不満・要望等への傾聴姿勢や対応、組織内の共有について、さらなる配慮を望む内容が3件寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	15	7	5	16
「はい」が55.6%、「どちらともいえない」が25.9%、「いいえ」が18.5%となっている。 自由意見は2件で、「相談したいと思ったことがない」のほか、外部の意見窓口の周知や要望・不満等への対応について、さらなる配慮を望む声寄せられている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	法人共通の理念・目標等について、さまざまな方法で保護者や職員への周知を図っている 保育の基本理念「すべての子どもの最善の利益のために」、「心身の調和的発達」をはじめとする五つの保育目標、異年齢保育や表現・造形活動等の保育の各特色など、保育や子どもの育ちにおいて法人共通に目指すものを明確にしている。保護者にはこれらを入園時の説明のほか、保護者会や園便り等を通じ、園・法人が保育などにおいて何を大事にしているかをさまざまな言葉・話題で伝え、周知と浸透を図っている。職員には入職時の教育に加え、着任後の日常の業務・会議、法人内・園内の各種研修などによって、実践を通じた体験的な理解を促している。 なすべきことを現場が具体的に理解できる指導や、風通しのよい組織づくりに努めている 経営層の役割・責任・権限は、園策定の職務分担表や運営規程に記載されている。新卒者と若いリーダー層が組織の中核を担う中で、経営層は意識的に現場に関わりながら、マニュアルの配付と復唱や、環境設定や時間帯ごとの採光の配慮をはじめ、業務場面ごとに具体的な助言を行う配慮など、何事もわかりやすく伝えることで法人の目指すものが具体的に理解され、実践されるようにしている。また「報・連・相」の徹底も大切にするとともに、職員が闊達に意見を交わせるよう、胸襟を開いたコミュニケーションにも努めている。 各種案件を検討・決定し、必要な情報を関係者に伝達する手順が整えられている 出席可能な常勤者による毎月の職員会議と、非常勤者向けに行うパート会議を設け、園内の各種案件はこれらの場で検討され、相互に情報や決定事項等を伝達する仕組みとしている。また各階のフロア会議が月に複数回行われ、現場からの稟議や提案などをまとめて前述の各会議に上げることとなっている。これらの欠席者には記録の確認やフロアリーダー・主任・園長からの個別の伝達などによって決定事項渡欧を伝え、保護者には連絡通信アプリや各種文書の配付・掲示により、案件の内容などにおうじて重要な決定・変更等を伝達している。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
実践的な計画策定に取り組んでいる		3/5
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
<b>評価項目2</b> 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
<b>カテゴリー2の講評</b>		
<b>園を取り巻く事業環境について、さまざまな観点で情報収集を行っている</b> 保護者との日々の会話・面談や連絡帳のほか、連絡通信アプリによる行事後の感想把握、保護者会や1階の意見箱などから利用者の要望・意見等を収集し、駐輪場への雨除けの屋根の設置など、意向の反映にも取り組んでいる。また職員の意向は前述の各会議や経営層との面談などから収集し、利用世帯の増加を踏まえ、玄関に抱っこ紐等を置くなど、可能な改善に活かしている。保育・福祉や子育て等に関する地域・行政や業界の状況は、自治体・各種団体の会議・研修や発信物、市役所担当者との情報交換、見学者・在園世帯との会話などから把握している。		
<b>毎年度の事業計画書と予算を作成し、園の運営の指針としている</b> 毎年度の事業計画書には園の概要のほか、保育や組織運営、保護者・地域支援などに関する「事業重点目標」を記載しており、年間の予算は前年度実績を踏まえ、人件費・修繕費等の見込まれる増減を反映させて作成し、事業計画書とともに理事会で承認を得ている。月次及び四半期単位の収支状況の確認もなされており、毎月の系列園園長会で法人各園と共有されている。各職員の保育者・社会人としての資質向上によって保育や保護者対応などの質を高めることや、地域との連携・交流を深め、園に対する認知を向上させることなどを中・長期的な課題としている。		
<b>現場の各活動を計画作成のもとで行い、必要に応じた進捗確認や見直しを行っている</b> 保育課程に示される各年齢の子どもの標準的な育ちの姿、保育の各指導計画や行事等の計画書に記載されるねらい・目標など、現場の各活動では達成や実行の目安となる指標を定め、週・月の各指導計画は終了期に評価・反省を行って達成度を測り、次期の計画に反映させ、主要行事の実施においては準備の状況を会議で随時確認するなど、必要に応じた進捗確認や計画の見直しがなされている。また年間事業計画については年度末に対応する内容の事業報告書が作成されており、成果の検証の機会となっている。		



カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
<b>評価項目2</b> 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
<b>保育者としての規律・規範を各職員が意識し、実践できるよう、啓発に取り組んでいる</b> 法人の「服務心得マニュアル」に、職員に求める各種規範が定められるほか、法人の新人研修では機密保持を含む社会人としての服務規律を中心に、公金受託施設の職員として守り実践すべき判断・行動の規範に関する啓発がなされている。また日々の会議でも子どもの名前の呼び方など、経営層が法人共通に求める子どもの尊重に関する注意喚起を行うとともに、保育の基調とする子どもを「誉める」行為・意識などについて、具体的な点検項目に基づく反省と目標設定を「保育の振り返り(自己評価表)」によって行うなど、さまざまな啓発を行っている。		
<b>利用者の権利擁護に向け、保護者の要望・苦情や児童虐待への対応体制を整備している</b> 保護者との会話・面談や連絡帳、連絡通信アプリや1階に設置の意見箱などから個別の要望・苦情等の把握を行い、対応・解決に取り組んでおり、案件に応じてアプリでの配信などによって保護者に内容や対応経過などを通達している。また苦情解決制度を整備し、入園時に保護者へ説明を行っている。児童虐待については、上記の「服務心得マニュアル」中に早期発見と対応に向けたマニュアルを記載し、通報・連携先機関を定めるとともに、各職員が日常の子どもの衣服の着脱時の視診や送迎時の親子の様子などから、兆候や事例の発見に努めている。		
<b>保育・福祉の拠点として、地域との関わりを深めるためのさまざまな取組を行っている</b> ホームページや国分寺市の各種媒体を通じて園の情報を市民に発信し、沿道に設置した地域向けの掲示板の活用方法を模索している。また実習生や高校生の体験ボランティアを受け入れ、法人共通のマニュアル・誓約書様式を用いて対応している。地域貢献は見学者への相談対応程度にとどまっているが、市内所在の法人各園が市と協定を結び、災害発生時の市民への避難場所や備蓄品の提供、保育実施などの支援を行うこととなっている。市の保育所園長会や地域別の保・幼・小連絡会など、市内の保育・教育機関等との連携や共通課題の検討にも取り組んでいる。		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>4/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>各種の事故や災害・侵入など、優先して対応すべき各種リスクへの対策に取り組んでいる</p> <p>子どもや職員の生命・安全を脅かす各種リスクのうち、SIDSを含む各種の事故、災害などを優先度の高いものと考え、子どもの睡眠時の呼吸・体勢等の確認や毎月の防災訓練などを行うほか、外部の専門資源を活用したアレルギーショック対応・心肺蘇生等の研修を計画するなど、必要な対策を講じ、侵入対策についても、不審者侵入を想定した訓練を実施し、対応を確認している。防災訓練では消防署との連携や保護者との子どもの引き渡し手順等の確認など、関係者との連携にも努め、BCPIについては市策定のモデル様式をもとに、今後検討予定としている。</p> <p>園内及び法人内のケガ・ヒヤリハットに関し、予防や再発防止のための啓発を行っている</p> <p>保育中の子どものケガは、発生のつど原因・対策を検討し、受診の有無を基準に所定の様式に記録するとともに、その供覧や会議等での通達によって組織内に注意喚起を行っており、ヒヤリハットについても同様に記録・共有することとなっている。また法人内の系列各園のケガや事故・ヒヤリハット等がクラウド上の共有フォルダ内で随時伝えられおり、報告書にまとめられた他園の事象について、園長が閲覧を促すなどして啓発を図り、自園での発生防止や各職員のリスク察知の感性の錬磨につながるようになっている。</p> <p>各種情報の利用・保護について、職員への啓発や保護者への説明を行っている</p> <p>法人の「個人情報管理規程」「文書取扱規則」に情報の取り扱いや開示等に係る諸規定が記載され、「職員の心得マニュアル」にも書類・データの禁帯出や保護者との会話時の配慮など、機密保持に係る心得を定め、職員には入職時に関連する啓発と誓約書取得を行っている。各PCへのパスワード設定や法人クラウドへのアクセス制限、事務室内の書棚への施錠など、情報漏洩の防止にも努めている。保護者には入園時に書面による情報の利用目的の説明と同意確認を行い、ボランティア等には必要に応じ、受け入れ時に説明と誓約書取得がなされている。</p>		

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3/3
組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当	
カテゴリー5の講評			
<p><b>職員の採用や配属・異動など、必要な人材の確保と活用に向けた仕組みを整えている</b></p> <p>法人が常勤・非常勤の各職員の採用を統括し、多様な方法で必要な人材の獲得に努めるほか、園単位でも養成校との連携による実習受け入れからの継続採用などの取組を行っている。書類と系列園の経営層複数名による面接をもとに採用者を選考し、今年度は法人共通の面接時の評価表が策定されている。職員の配属や系列園間の異動は法人が決定し、キャリアパスについては法人内の人事委員会で検討が進められている。園内での職員の配置は本人の意向と経験・適性、各フロア・年齢の子どもの状況などを踏まえて園長が決定している。</p> <p><b>各職員の資質向上に向けた内外での研鑽や、会議での各種課題検討がなされている</b></p> <p>法人共通の保育の軸とする「誉める保育」について、他法人と合同の研鑽機会が年間を通じて設けられるほか、外部講師を活用した事例検討や園長・主任向けの階層別研鑽等の法人主催の各種研修、法人内の「保育の質向上委員会」による各園の視察と指導も行われている。また各自治体・団体等による研修で職員が得た学びは、主に報告書・資料の供覧によって組織内で共有を図り、乳児・幼児の各会議を中心に、子ども理解や保育の環境・活動等に関する話し合い、事例を踏まえたアレルギー食提供方法の改善など、さまざまな課題検討がなされている。</p> <p><b>個別の能力向上のための工夫や、法人共通の各種福利厚生制度なども設けられている</b></p> <p>各職員が「保育の振り返り(自己評価表)」に「誉める保育」の実践を中心とした反省と目標を記載する仕組みを設け、簡易的な個別の目標管理に活用するほか、中堅層には上記の法人内の研修や経営層による随時の支援により、指導力向上を促している。また各人の成長や貢献を賃金設定や役職登用等の参考とするほか、法人・園での各種懇親機会や外部機関によるチーム力向上の研修も設けられている。経営層による各職員の意向や就労状況の把握のほか、各種費用の負担・補助や休暇制度、確定給付年金・資格取得助成金等の福利厚生仕組みも設けられている。</p>			

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>29年度は開園2年目にあたり、新人・若手が組織の中核を担う中で、「誉める保育」をはじめとする法人の目指す保育、そのよりどころとなる理念などを中心として、職員集団全体で研鑽に取り組み、理解を深め、保育の質の向上などに活かすことを目指した。法人が提携する他法人と合同で行う『『誉める保育』研修』に、非常勤を含む全職員が参加し、系列及び提携法人の各園の視察研修やその後の話し合いを通じ、実際の保育や子どもたちの姿を踏まえた実践的な学びに取り組んだ。また外部の講師・業者を積極的に活用して行う法人主催の各種研修も、保育の実務的な知識やチーム力向上等に役立てられた。さらに役職者を中心に自治体等主催の各種専門研修にも参加し、職位に応じた知見の獲得を促した。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>毎回の研修参加後の各職員からの報告書提出のほか、年度末の園長による事業報告書作成などを通じ、取組の成果の検証がなされた。各人の報告書の内容や現場での実践などから、法人の目指す保育の実践については、それぞれの職位・経験等に応じた理解がなされたと考えている。子どもの成長像などに対しても共通理解が深められたが、一人ひとりの子どもに職員が向き合い、その時々で最善の環境や活動を設定するという保育の特性ゆえに、とすれば職員・大人の主導に偏った支援となりがちな面も見られたことが反省として残った。今年度も取組を継続するとともに、特に新人職員が『『誉める保育』研修』等に参加する際は園長・主任が同行し、そばについて本人が見たこと・聞いたことについて、適宜意味や目的などを具体的に伝えるなど、より効果的な学びが図られるよう配慮することとしている。また新人・若手の指導役の担う中堅・上席の職員には、提携法人が運営する他県の保育所の視察を含め、「誉める保育」等に関する研鑽や指導力の向上を促す取組も検討している。</p>	

## 評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

## 前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

上記に加え、保護者との共通理解や信頼関係の向上にも努めた。

日々の会話・連絡帳や面談などから随時把握される要望の中で、前年度から継続して要請されていた駐輪場の屋根の設置について、検討を行った。

当初課題となっていた設置費用について、業者3社の見積もり比較によって価格交渉を行うとともに、法人にも設置の必要性を訴え、理解と協力を求め、6月の設置完了につなげた。

また保護者会や参加型の各種行事、園・フロアの各便りなどを通じ、園の目指す保育や日々の子どもたちの取組などを発信し、理解獲得に努めた。保護者会では写真や動画も活用して日頃の子どもの姿を伝え、「ひだまりの森フェスティバル」でも保護者の待ち時間に映像で日々の生活の一端を紹介するなど、より具体的に伝わる工夫に努めた。さらに行事の際にもテーマの発信や説明を行い、毎日の各フロアの活動内容の掲示も実施するなど、園の目指す保育や子どもの育ちを保護者に伝える取組をさまざまに行うとともに、調理委託する外部業者や専門講師による食育や絵本に関する育児講座も企画・実施した。

## 目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

## 取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

## 検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

## 評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

年度末の事業報告書作成にあたり、園長が取組の振り返りと成果の検証を行った。駐輪場屋根の設置は足かけ2年にわたる対応となったが、保護者にも好評を得ている。

保護者との共通理解・信頼関係の向上については今年度も引き続き注力し、保護者会等での発信に加え、「もりんぴっく(運動会)」でも園長から競技・演目の流れを説明する中で、年間の一貫した保育のテーマとの関連についても説明するなど、保護者の理解が深まるようにしている。また育児講座も昨年度の企画を継承して実施することとしているが、昨年度は想定したほどの参加が得られなかったことから、今年度は親子体験型の各種行事の充実にも取り組んでいる。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p><b>パンフレットやホームページで園の特徴を伝えている</b> 見学者には、カラー印刷のパンフレットを渡している。パンフレットには、保育理念や保育目標・保育の内容・一日の流れ・年間行事予定・定員・連絡先が掲載されている。ホームページには園の概要や大切にしていることのほか、実践する異年齢児保育・コーナー保育・食事などの保育内容や保育目標を、写真を用いて伝わりやすく工夫し紹介している。さらに、園のルールや園で保護者に配付される園便り・保健便り・食育便りのほか、財務状況も掲載されている。内容の更新は月に1回行っている。</p> <p><b>行政機関への情報提供を通じて園情報を発信している</b> 市が利用希望者に配布している市の私立保育所団体制作のパンフレットに、当園の情報が掲載されているほか、毎年市が行う説明会に参加し、園の取組を紹介する機会を得ており、ブースでは説明と質疑応答を行っている。また『とうきょう福祉ナビゲーション』にも園の基本情報や第三者評価の結果が掲載されており、在宅においても園情報を入手することができるようになっている。地域への情報発信という点においては、さらなる活動の充実を課題としており、夏祭りなどの園行事を活用する方向性が検討されている。</p> <p><b>見学では園舎内を案内し、保育の特徴や環境の工夫を伝えている</b> 見学の対応は主に副園長が担当しており、月曜日から金曜日までの午前10時半から30～40分程度を目安に行っている。最初にパンフレットを使いながら園の概要を話し、子どもの年齢や保護者が知りたい内容を把握する時間を設けている。園舎内を案内する際には、子どもの生活や遊びの様子を見てもらいながら、保育の特徴やそれに伴う環境の工夫などを説明している。質問には適宜答えつつ、育児相談にも応じている。そのほかの曜日でも、希望があればできる限り対応するようにしている。</p>		



サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
<b>サブカテゴリー2の講評</b>			
<p><b>入園説明会では園のルールなどを説明し、保育開始の同意を確認している</b>                      入園説明会は前年度の2月に行うこととなっている。説明会では、事前に配付している「入園のしおり」・重要事項説明書に対する説明を行い、同意書により重要事項への同意を確認している。説明は、法人や園の概要・保育の理念・目標・内容のほか、園を利用するにあたっての登降園時のルールや延長保育・家庭で準備するもの・保健・食事などについて、冊子に沿って大切なところを重点的に伝えており、園長・主任・専門職が説明している。質疑応答を通じて、不安や疑問の解消に努めており、準備物は実物を用意して視覚的に説明している。</p> <p><b>保育開始に必要な子どもと家庭の状況を書類と面談で確認し、記録している</b>                      入園時には、保護者記入による「入園時健康状況調査書」や「個人調査表」によって、成育歴・出生時状況・発達・病歴・体質的特徴・予防接種など、子どもの発達や健康の状況のほか、主な送迎者や利用希望時間など保育開始に必要な情報を確認している。個別面談は、上記の書類を確認するとともに、さらに詳細な状況や保護者の意向についても確認している。また看護師・栄養士も担当分野についての説明と聴き取りを行って、一人ひとりに応じた子どもに負担の少ない保育開始につなげている。記録した内容は、職員間で共有している。</p> <p><b>入園直後の負担の軽減に努め、利用終了後の関係継続にも取り組んでいる</b>                      子どもの負担軽減に向けて、上記のように個別面談で把握している。入園前の子どもと家庭の状況を踏まえた個々に応じた関わりに努めるとともに、「慣らし保育」を行っている。慣らし保育は徐々に保育時間を延ばしながら行っており、食事・排せつ・睡眠の状況を詳しく把握して、保護者と連携を取りながら対応している。転退園時には思い出のアルバムを作成し、再訪できることを伝えるほか、夕涼み会や「もりんぴっく」(運動会)などの園行事でも案内を送付するなど、利用終了後の関係の継続に取り組んでいる。</p>			

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12/12
3	個別状況の記録と計画策定		
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		<b>評点(〇〇〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		○非該当

<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリー3の講評</b>		
<p><b>入園時の書類をもとに面談が行われ子どもの成育歴を確認している</b></p> <p>入園決定後に保護者が記入をする「個人調査票」「新入園児食事状況確認書」をもとに個別面談を行い、子どもの身体状況や生活習慣についての詳細を聴取するとともに、保護者からの要望等も聴き取っている。聴取した内容は面談シートに記録をして職員に回覧をし、全員のサイン確認後に個別ファイルに綴ることとしている。入園後の面談は年2回行われており、園と家庭の様子を共有して子どもの発達支援につなげている。そのほか、「健康の記録」に毎月の身体測定結果や予防接種、集団健診の内容が記録され、保護者も確認をしている。</p> <p><b>保育課程をもとに年・月・週の計画が策定されている</b></p> <p>法人共通の保育課程をもとに各計画が策定され、保育実践へと展開されている。保育課程には特色ある保育として「誉める保育・合同保育・表現・造形活動などの集団保育」が掲げられている。年齢ごとに年・月・週の計画が策定され、0～2歳児は毎月個別計画を策定している。計画の内容及び保育者の配慮やねらいに対する子どもの姿は毎月振り返りが行われ、翌月の計画策定へつなげられている。計画内容は保護者会で伝えるとともに、保育内容で大切にしていることや環境設定についての説明を行い理解を図っている。</p> <p><b>入園後の子どもの姿を記録する仕組みが整えられている</b></p> <p>「発達の記録」は入園後の子ども一人ひとりの心身両面での成長発達を記録する内容とし、健康・生活・遊び等の項目について到達月齢に印をつけ、そのほかに参考となる事項として0～2歳児は毎月、3歳以上児は年4回記述式での記録をしている。計画内容の振り返りはフロアごとに行われ、内容はフロア会議録として残され、参加していない職員への情報共有としても閲覧への促しを図っている。計画や個人の記録はPC内のクラウド上に保存がなされ、職員の情報共有に役立てている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	5 / 5
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>個人情報保護についての保護者への説明と羞恥心への配慮に取り組んでいる</b></p> <p>「個人情報の取り扱いについて」「お子さんの写真等の取り扱いにおけるプライバシー保護への配慮について」は入園説明会時に説明を図り、署名捺印をもって同意としている。羞恥心への配慮として乳児から裸にならないような着替えの手順を知らせたり、幼児のトイレには個別の扉が付けられている。保育室内の環境として着替えを行う際にはロッカーが目隠しとなっているが、外部から完全に遮ることで死角ができてしまう点では今後の課題としてとらえているとのことである。</p> <p><b>子どもが認められていることを感じられるよう、一人ひとりに応じた関わりに努めている</b></p> <p>子どもたちは、一日の中で多くの時間を自発的・主体的に活動することを許されている。子ども一人ひとりの特性や発達に応じた保育を心がけており、保育実践の段取りや時間的・空間的な制約など、大人の都合で子どもたちの思いや行動に応じることのないよう取り組んでいる。子どもの名前を呼んだり、話す時には何かをしながら対応するのではなく、子どもの目をしっかり見て、目が合うまで待つようにしている。目を合わせてゆっくり待つことで、認められている・愛されているということを感じられるように関わることを大切にしている。</p> <p><b>主体性を尊重する保育実践の意味を振り返り、虐待対応マニュアルを整えている</b></p> <p>上記の子どもの存在自体を肯定的に受けとめ、子どもの主体性を尊重した保育実践に向け、会議等でその考え方の振り返りを行っている。名前の呼び方を丁寧に行うことや、否定をする時には、してほしくないという大人の思いが強く、自分を客観的に見るよう心がけないと子どもの経験をいたずらに奪ってしまう可能性があることなど、保育士が気をつけるべきことについて話し合われている。虐待防止と早期発見に向け「虐待対応マニュアル」を整えており、発見時の対応・早期発見のポイント・虐待の種類・チェックリスト・通報のポイント等が記載されている。</p>		

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <span style="float: right;">○非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリー6の講評	
<b>園運営に必要な手順書が整えられ、園の保育の考え方が明らかにされている</b> 安全管理・不審者侵入時対応・虐待対応・健康管理・感染症など、園運営に必要な手順書が整えられている。このマニュアルは事務所に常置しており、業務上必要な時に確認できるようになっている。保育理念等が記載された「入園のしおり」は非常勤も含む職員全員に配付している。また事務室には「森友会が大切にしていること」が掲示されており、保育理念を理解するために必要な言葉の概念が説明されている。園内では乳児担当・幼児担当を一定期間で入れ替えるなど、互いの保育が保育理念を踏まえたものになっているか確かめつつ学んでいる。	
<b>さまざまな取組を通じて、業務の基本を身につけられるようにしている</b> マニュアルの定着に向け、フロア会議や職員会議等で、確認の必要になったものから読み直しをすることになっている。新人職員には初日に入園のしおりを配付し、通読することを課すほか、経験ある職員とともに職務を遂行する中で業務の基本を身につけられるよう、パートナーになる職員はOJTの効果を考慮して決めている。嘔吐処理など即時対応が必要な手順については別冊の手順書を配付するほか、看護師による指導がロールプレイを採り入れながら行われており、チーム対抗で正確さと速さを競い、楽しみながら定着できるよう取り組んでいる。	
<b>マニュアルは必要に応じて改め、保護者や職員の意見を改善につなげている</b> マニュアルは、法律やガイドラインの改正・各園の状況に合わせて、法人本部が改正する仕組みになっている。園独自の決まりや、保育実践上の安全確保等の決まりなどは、適宜改善の必要に合わせて最適化を図っており、各種会議で周知に努めている。またマニュアルは保護者からの意見を踏まえた改善にも取り組んでおり、意見箱の設置のほか、行事後には保護者に対してアンケートを実施している。改善提案を受けた改善の事例として、今年度は駐輪場に雨よけをつけている。職員からの提案では、書類の整理の方法を改めている。	

## Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>すべての子どもの姿の情報共有を職員間で行い、個々の支援に活かしている</p> <p>乳児と幼児のフロアは二つに分かれており、0・1歳児、2歳以上児の異年齢保育が形成されている。担任はフロア内の子どもだけを把握するのではなく、双方の子どもたちの姿を把握するために、フロア会議での情報や日々の子どもの様子を伝達し合う仕組みを整えている。活動中はトレーシーバーを活用して保育者同士の連携を図り、乳児・幼児の担当に関わりなく子どもの様子を伝達するように努めている。子どもが活動場所を自発的に選択する気持ちを尊重することで、乳児と幼児が双方の部屋で過ごす姿も日常的に見られている。</p> <p>子どもが主体的に取り組める環境が整えられている</p> <p>各フロアは玩具が並べられた棚を活用して、遊びごとのコーナーが設けられている。子ども自身が遊びを選択し、好きな遊びに興じることができる環境を整えている。保育者は全体及びコーナーで遊ぶ子どもを見守る姿勢を基本としながらも、遊びに向かえずに戸惑う子どもに対して、段階的な見守りを行いつつ声をかけ、遊びの入口への促しを行っている。子ども同士のトラブルの際にはタイミングを見て保育者が間に入り、子どもたちの思いを聴き、話し合っ解決に導いてゆける関わりを行っている。</p> <p>さまざまな特性に応じた支援を行っている</p> <p>特別な配慮が必要な子どもへの関わりとして連携機関からの助言を受けて、子どもの特性に応じた環境や関わり方の工夫に努めている。個別の計画類は、継続した発達支援を行うために担当保育者が年間を通して策定している。また保護者との連携を図り、家庭と園での関わり方を共有できるようにしている。年長児は就学に向けて近隣の小学校見学に出かけ、在校生と交流を行い就学への期待感が高められるような活動に参加をしている。ほかにも系列園の年長同士での活動が定期的に行われ、仲間意識を持ち大集団で過ごすことの楽しさを感じている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>日々の子どもの状態を把握して健康的に過ごせるような支援と情報共有を図っている</p> <p>登園時は、乳児は連絡帳に記載されている内容を確認して子どもの健康状態を把握するとともに、口頭でも保護者に確認をしている。幼児は子どもとの対話から日頃の変化が見られているかどうか視診を行い、さらに保護者から口頭で登園までの状態を確認している。変化が見られる場合は「受け入れ受け渡し連絡表」に記載をして職員間で共通認識を図っている。看護師は同表と連絡帳の確認を毎朝行い、体調が不安定な子どもはこまめな検温を行って、急変する前に的確に把握できるような支援を行っている。</p> <p>個々の意欲や発達を尊重した身辺自立の促しに取り組んでいる</p> <p>排せつや着脱などの身辺自立に向け、一斉に取り組むのではなく個々の成長発達や意欲を把握して、個別支援を行っている。トイレへの促しは子どもの排尿間隔が一定になり、トイレへの興味が見られたらまずは座ることから開始している。着替えは個別に関わり、自分でしたいという意欲を尊重して、段階的な見守りを行いながら子どもが味わう達成感を大切にしている。幼児のフロアでは、年上の子どもの姿を見てまねて行おうとする年下の子どもの姿が見られ、異年齢での生活を通して憧れの気持ちから意欲が促されている。</p> <p>午睡は個々の生活リズムを尊重し、身体を休める環境を整えている</p> <p>午睡は個々のペースに合わせて午睡環境を整え、一斉の寝かしつけは行われずに子どもの眠い表情を察したり、子どもの意思に対応をして布団へと促している。保護者からの午睡の要望を考慮しながらも子どもの意思を尊重し、眠らない子どもにはできるだけ身体を休められるような環境を整えており、保護者理解のための連携は今後も深めていきたいと考えているとのことである。SIDS対策として0・1歳児は5分、2歳児は10分ごとに呼吸・状態のチェックを記録しており、うつ伏せ寝は仰向けに直したり、上かけを整えるなどの配慮が行われている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p><b>日々の活動は子どもが主体的に選択をして過ごしている</b>                  乳児・幼児のフロアは興味や発達に応じて玩具・教材などが棚に置かれ、遊び込める環境が整えられている。大型遊具が設置されている屋上園庭では身体をダイナミックに動かしたり、築山や砂場がある園庭では砂遊びからごっこ遊びを展開したり築山の登り下りを楽しんでいる。日々の活動は、これらの環境を子どもが自発的に選択をして過ごしている。造形や絵画などの作品は個別にフレームに入れて棚の上や壁に展示されており、子どもが満足感を抱き、自己肯定感も高められる取組が行われている。</p> <p><b>音楽や造形など表現する喜びを感じられる取組が行われている</b>                  各フロアには季節や興味に応じた絵本が並べられており、子どもの要望に応じて読み聞かせをすることで応答的な関わりから言葉を学び、言葉の獲得へとつながられている。定期的に表現活動や外部講師による造形活動の時間が設けられ、音楽を通して身体全体で表現する喜びを体感したり、さまざまな教材や素材を活用して工夫を凝らしながら作品を作り上げる達成感や満足感につながられている。表現活動は「ひだまりの森フェスティバル(発表会)」の演目にも採り入れ、日々楽しみながら行っている姿を保護者にも披露できる機会となっている。</p> <p><b>戸外活動では五感が刺激され、四季を体感できる機会となっている</b>                  戸外活動は四季折々の自然事象に触れることで、子どもの五感が刺激され自然物を収集して制作に活かしたり、暑さや寒さを体感して自分自身の身体感覚が養えるなど、健康増進にもつながられている。ピクニックとして年齢ごとに人数や行き先を選定し、水筒やお弁当・おやつなどを持参して公園で存分に遊んだり、動物園で動物とふれ合うなど、日頃とは違った活動をすることで季節感や特別感を味わえるような取組が行われている。年齢によって公共交通機関を利用し、交通ルールや社会性も学べる機会となっている。</p>		



4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p><b>行事は子どもの日頃の興味とつなげて意欲的に取り組んでいる</b>  芋掘り遠足では子どものイメージを共有するために事前に店舗へ出向き、並べられている芋から土の中の芋を想像できるような働きかけを行い、意欲が高められている。夏祭りや「もりんびっく(運動会)」では野菜をテーマに掲げて、子どもたちの身近なものを採り入れることでより楽しく取り組めるような行事を計画するなど、日頃の活動と行事をつなげて活動したり披露する場としている。伝承行事では各行事の由来を子どもたちと考えたり、制作に取り組んでいる。これらの制作も一斉に行うことなく、興味を抱いた子どもから徐々に取り組んでいる。</p> <p><b>行事を通して一人ひとりの成長が感じられている</b>  年長児の「お泊まり会」は系列園の子どもと一緒に行われ、日中は周辺散策や広場でルールのある遊びを楽しみ、室内では事前に導入された絵本の世界を描いてゲーム遊びを楽しんでいる。夕食に向けて食材の買い物へ出かけ、仲間と協力をして食事作りをするなど、親元から離れて過ごす時間を体験し、自立心の芽が養われ、達成感とともに一人ひとりの自信につながれている。また「フェスティバル」では乳児は慣れ親しんだ体操を踊り、幼児は合奏・合唱やオペレッタを披露するなど、それぞれの成長が感じられる行事となっている。</p> <p><b>行事に向けての保護者理解を図り、親子で期待感が高められるような工夫を行っている</b>  年間行事計画表は年度当初に保護者に配付がなされている。各行事の内容は事前にメールを通じて各家庭に配信されており、保護者が事前に内容を理解し、子どもとともに期待感を高めてもらえるような配慮が行われている。また行事の事前取組などの過程では、写真や文章で子どもの姿を伝えている。もりんびっくでは万国旗の制作依頼をしてそれぞれの家庭の個性が見られ、当日に向けての一体感が生まれている。保育参加では子どもとともに遊びを体験し、日頃の保育内容や関わり方への理解が深められる機会となっている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>保育者との信頼関係を高め安心して過ごせる環境となっている</b></p> <p>一日を通して子どもが主体的に活動を行い、一人ひとりの生活リズムを尊重することで、子どもが安心感を抱いて生活ができるようになっている。長時間を過ごすことでも個々のペースを大切にし、ハグや誉めることを常時行うことで保育者と子どもとのスキンシップが高められ、子どもは誉められることで自己肯定感が高まり、意欲の向上や信頼関係の構築にもつなげられている。異年齢での活動を主としているので合同保育時も子ども同士が違和感を覚えることなく、遊びに興じながらお迎えを待てるような環境となっている。</p> <p><b>延長保育時間帯は補食や夕食の提供を行っている</b></p> <p>延長の子どもは補食か夕食を提供し、乳児から幼児までの子どもたちが集まり会話をしながら、のんびりとした雰囲気の中で食べている。子どもが少なくなった時は可能な限り個別に接し、子どもが不安にならないような配慮を行っている。また、日頃提供されていない玩具や教材を提供することで、楽しく時間を過ごせるような工夫も行われている。降園時は一日の様子を連絡帳やフロアごとに作成された活動の様子を掲示しているほかに、口頭でも伝えられるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>個々のリズムに合わせた食事形態に取り組んでいる</b>                  昼食は11時20分から13時の間に、自分のペースで空腹を感じた子どもから開始することができる。保育者は配膳準備を行い子どもの様子を把握して、身支度ができた子どもから個別に名前を呼び、配膳の促しをしている。配膳中は子どもと1対1の会話で盛り付けの量などを聴き取り、自分の食べられる量を自分で言葉に発したり、献立内容についての会話を保育者と行い、苦手意識を払拭し、食への意欲を促すことなどにも役立っている。保育者もローテーションを組み、近くで見守る必要のある子どものそばで一緒に食べるなどの配慮も行われている。</p> <p><b>旬の食材を活用して多彩なメニューを提供している</b>                  食材は季節に応じた旬のものを活用し、和食を中心にだしを効かせた薄味調理となっている。毎食フルーツが添えられ子どもたちの楽しみの一つとなっている。毎月の食育の日には、旬の食材と伝承行事のメニューが盛り込まれている。乳児は午前の活動前にお菓子と牛乳が提供され、乳児・幼児ともに午後のおやつはケーキ・クッキーや麺類・ご飯など多彩な手作りメニューが提供されている。子どもが楽しく食事が摂れることを基本に、日々の献立・調理や野菜の栽培・クッキングなどの取組を行い、食べる楽しさやおいしさを感じることができるようにしている。</p> <p><b>離乳食や食物アレルギー児への安全な提供の仕組みを整えている</b>                  離乳食は「未食材一覧表」をもとに家庭で試してから園で提供するなど、保護者と連携を図っている。座位が不安定な子どもはベビーチェアを使用して、保育者に見守られる中、子どものペースでゆったりと食事が進められている。保育者は一人ひとりの咀嚼や嚥下などの機能の発達を把握しながら個別に配慮をして進めている。食物アレルギーの子どもは、医師の診断書のもと個別面談が行われ除去・代替食を提供しており、日常の提供時には保育者と栄養士が提供内容を確認して、専用トレーや食器を使用し安全に提供できる仕組みを整えている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>子どもが自分の安全や健康に関心が持てるよう保健指導が行われている</b>          子どもの発達状況によって理解度に応じた表現を用いて、子どもが自分の安全に関心を持ちケガを予防・防止できるように、屋上の遊具での遊び方や散歩時の危険性、ハサミを使う時の注意を繰り返し伝えている。また、交通安全教室も実施している。そのほか保健指導も行われており、手洗いやうがいの大切さや正しい洗い方を伝えている。さらに看護師による歯科指導が行われており、歯の磨き方を教えるだけでなく、今年度は栄養士とともに虫歯になりやすい食べ物について模型を用いて伝えている。</p> <p><b>看護師は子どもの体調の急変に備え、衛生環境の維持に取り組んでいる</b>          看護師は午前中に視診を行うほか、連絡帳や保育士が保護者から伝え受けた内容、視診の状況を確認し、特にケアを必要と感じる場合には保育士と連携を図りながら、こまめに経過を観察して急変に備えている。また、冷暖房器具や加湿器などを活用しながら、適切な室内の温度・湿度となるように取り組んでいるほか、おむつ替えに使う椅子は使用後の消毒を徹底し、おもちゃは毎日消毒することとなっている。嘱託医の内科健診の際には、健診だけでなく保護者から受けた心配ごとや質問への助言、周囲の感染症の情報提供を受けている。</p> <p><b>看護師による職員への保健指導が行われ、保護者にも保健情報を発信している</b>          看護師による職員への保健指導として、嘔吐処理・感染症・新人職員に向けての記録の方法、SIDSチェックの方法、個別のケアが必要な子どもへの対応方法などについて行っている。服薬介助については基本的には行っていないが、保育に支障が出る症状があり、医師の診断書・薬剤の情報提供書等の必要な書類が整えられた場合には対応することとしている。入園時の説明会の時には、嘔吐下痢の処理方法を記載した資料を配付するほか、保健便りには季節に応じた健康や感染症などに関する内容のコラムを掲載して、健康への意識啓発に努めている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>保護者の事情に配慮した支援に努めている</b>                  保育時間や利用に関するルールに則って運用することを原則としているが、保護者の就労事情等による利用時間の急な変更には、できる限り柔軟な対応に努めている。また保護者が参加する行事は土曜日開催とし、開催の前月には詳しい日程を伝えている。また、公開保育を毎月20日に設定するなど、参加の利便性の向上に努めている。利用者調査の結果では、急な利用時間の変更・行事日程についての設問でともに80%以上の家庭が満足と回答しており、保護者の事情に配慮していることが伺われる。</p> <p><b>保護者会を開催し、保育の考え方を説明し、保護者同士が交流できるようにしている</b>                  保護者会は春・年度末の年2回、学年ごとに行われており、春の会では年間の見通しと「誉める保育」を理解してもらえるように、一日の生活や遊びの様子を写真等の資料を用いて伝えている。また、自分の子どもを紹介する時間を設けることで、育児の悩みや喜びを共感する機会にもなり、保護者同士の交流が深まっている。年度末の会では年間を振り返って、子どもの成長の様子を伝えている。特に、2歳児になると2～5歳児までの縦割りの異年齢保育になる不安を解消できるように、生活の変化や見通しについて丁寧に伝えるように心がけている。</p> <p><b>保護者との信頼関係を深めるために、個人面談や保育参加を行っている</b>                  保護者との信頼関係を深めるために、さまざまな取組が行われている。毎日写真を使った活動報告を掲示するほか、日々の連絡帳・送迎時のやり取り、年2回の上記保護者会、秋には個別面談を行っている。個別面談は園長も同席しており、家庭での様子や要望を聴き取るほか、園での生活や遊びの様子を伝える機会となっている。そのほか保育参加が行われており、今年度は2歳以上児の異年齢クラスでは、オペレッタの外部講師による表現活動を保護者もともに楽しみ、0・1歳児はヌルヌル感を楽しむ感触遊びを経験している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の方と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の方との関わりや公共機関の利用を通じてさまざまな経験をしている</p> <p>子どもの誕生日には、子どもと保育士で花屋へ誕生日の花を買いに出かけている。また調理保育の際には、近所のスーパーに買い物に出かけたり、ピザ屋に出かけてピザ作りの体験をしている。近隣の農家の協力のもと芋掘りに出かけたり、ボランティア団体が運営するひまわり畑に遊びに行くなどもしているほか、市民プールに出かける時には公共交通機関を利用して、公の場でのマナーを学ぶ機会になっている。さらに、各小学校が企画する見学会に参加しており、自分が進む小学校に出向き、学校の雰囲気に触れている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル①	保健指導においても主体性を尊重し、思い起こせるような伝えを心がけている	
内容①	子どもの自発性や主体性を尊重した保育を大切にしており、病気予防・歯磨きなど保健指導においても手順や知識を伝えるだけでなく、自ら考え、思い起こせるような伝えを心がけている。保健指導後にはできていることも、時間が経つにつれて子どもの気持ちが続かなくなることから、思い出せるように定期的に繰り返し指導の機会を設け、保育士と専門職の連携を図るほか、視覚的にわかりやすい教材を使うなどの工夫に努めている。また、道具を安全に使い気をつけて遊具で遊ぶなど、ケガをしないようにする意識の育みが子どもの主体的な活動を支えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	園が大切にしている保育の意味を保護者と共感できるよう取り組んでいる	
内容②	保護者との信頼関係を深めることに注力している。園が実践する子ども一人ひとりの存在を認め、子どもの主体的な活動や自発的な思いを受けとめ、育ちの多様性に応じる「誉める保育」においては、「子どもたち」の育ちだけでなく、「その子」一人ひとりの思いや育ちの固有性に関する保護者との共通理解が不可欠であり、共有感を高められるように取り組んでいる。日々の会話のほか、毎月20日の公開保育・保護者会・個人面談・保育参加など、年間を通じてさまざまな機会を設け、保護者に園が大切にしている「誉める保育」の意味を伝えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル③	さまざまな学びの機会を設け、各職員の知識・技術や組織のチーム力が高められている	
内容③	子ども一人ひとりの日々の小さな成功や成長を誉め、自己肯定感とさらなる挑戦への興味・意欲の高まりにつなげる「誉める保育」を、法人各園で実践している。その質や保育者の理解の向上に向けた研修が年間を通じて行われ、当園からも非常勤を含む全員が参加している。また外部の有識者を招いて事例検討と話し合いを行い、保育や子どもの育ちへの理解を深めたり、園長・主任のリーダー・指導者としての資質を高める研修が法人主催で行われるほか、チーム力・同僚性の向上を促す園内研修や系列園園長による来園指導など、学びの場の充実が図られている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが自発的に遊びや生活に取り組める環境・関わりを大切にしている
	内容	日々の保育は集団で一斉に活動を行うのではなく、一人ひとりの子どもの興味や意欲をみて、子ども自らがやってみようと思意欲を持てるような関わりや環境の設定に取り組んでいる。保育室や園庭などの活動は好きな遊びを自由に選び、個々や仲間とともに集中して遊びに興じる姿が見られている。乳児・幼児は2フロアでの異年齢保育が行われており、2歳児から5歳児までの幼児のフロアでは発達に即した遊具や教材が置かれ、遊びを通して交わり、異年齢で過ごす環境の中で年齢の異なる子ども同士がともに楽しむルールや役割分担が生まれている。
2	タイトル	子どもたちが主体的に取り組めるさまざまな行事が考案されている
	内容	「フェスティバル」では子どもたちが意欲を持って一つのことをやり遂げる達成感や、日々の活動を保護者に披露しそれぞれの自信や満足感を得られるようにしている。行事は日頃の活動や子どもの興味などつなげられ、「もりんぷっく」は「やさい」をテーマに、全クラスでカレーライスを作ろうをスローガンにして各年齢の種目に採り入れるなど、一つの目標に向かって作り上げる達成感を親子で得られる内容となっている。かけっこはゴールで保護者がハグをする取組も行われ、結果よりもそのままの姿を受けとめる「誉める保育」が行事につなげられている。
3	タイトル	のびのびと自然事象とふれ合える散歩やリズム・造形などの表現活動を採用している
	内容	近隣の公園や大学の構内など、四季折々の自然事象が感じられる場所に小集団で散歩に出かけ、道中や目的地で子どもとの対話を重ねながら自然物を見て触れるなど、子どもがゆったりとした時間の中で「のびのびと過ごせる活動が行われている。春の時期にはお弁当を持ってピクニックへ出かけたり、公共交通機関を利用して遠出をするなど、園内だけでは感じられない自然とふれ合える体験が積み重ねられている。また、リズムや造形を日々の保育に採り入れ、全身を使ってさまざまな表現をする楽しさを味わい、五感が刺激され子どもの感性が高められている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育理念や子どもの育ちに関する理解の深化と経験・知見の共有、実践力の向上に向け各種会議やOJTのさらなる充実が期待される
	内容	子どもの主体性や自発性を尊重した保育の実践においては、子どもたちの複数の意思が相反する場面も珍しくなく、判断が難しい場面もある。若い職員集団にとって、最善最適の判断と対応を場面ごとに行ってゆくためには、保育理念の理解をさらに深めることに加え、現場の実践から得られるさまざまな経験や知見を共有し、視点を定めることなどによって、実践力の向上を求めていく必要があるとも考えられ、その方策が模索されている。現在すでに行われている各種会議やOJTのさらなる充実が図られることに期待が寄せられる。
2	タイトル	地域の保育や子育ての拠点として、施設機能の還元や情報発信の工夫など、アプローチの充実に向けた検討を期待したい
	内容	地域に向けた園の機能・専門性の提供は、現在は園内の体制確立を優先し、園単体では見学者への相談対応程度にとどめているが、周辺の経営環境の推移から、中・長期的には園のブランド力向上の意味からも、取組の充実を課題と考えている。未就園児向けの体験・開放イベントを中心に、施設機能を地域に還元してゆくことで、園の認知度や存在価値を高めてゆくことを想定しており、見学者等からのニーズ収集の工夫とともに、今後の検討が期待される。また沿道の地域向け掲示板についても、園の活動の発信や各種広報などに活用することを検討されたい。
3	タイトル	さまざまな課題を組織全体で共有し、解決に向けて取組を進めるための計画の作成・実行が期待される
	内容	上記のほか、当面の園の課題として、保育や保護者対応などの質の向上につなげるべく、各職員の子どもの発達への理解を深めたり、社会人としてのコミュニケーション技術を高めることなどが認識されている。また事業拡大中の法人の状況にも鑑み、新人・若手への指導体制の充実や、それを担う中堅層以上の各職員の育成や指導力向上も課題となろう。来年度以降に想定される中・長期計画の策定においては、これらの観点で必要な取組などを洗い出し、取組を定めるとともに、年度の事業計画とも連動させて推進してゆくことが期待される。